

野見山 暁治 (のみやま ぎょうじ 1920-)

- 1920年 福岡県嘉穂郡穂波村（現飯塚市）に生まれる。
 1938年 嘉穂中学校（現県立嘉穂高等学校）を卒業し上京。東京美術学校受験のために香川県出身の洋画家小林萬吾の画塾に通う。春、同校に入学。
 1943年 戦争のため繰り上げ卒業。満州に出征するが肺を患い、帰国して療養所で終戦を迎える。
 1952年 フランス政府私費留学生として渡仏（1964年まで）。
 1956年 フランスの画壇、サロン・ドートンヌの会員となる。
 1968年 東京藝術大学にて教鞭をとる。（1981年まで、以後客員教授、1986年以降名誉教授）
 1994年 戦没画学生の遺族をたどり、戦没画学生の美術館「無言館」（1997年開館）の創設に尽力。
 2000年 文化功労者表彰
 2014年 文化勲章受章
 2021年 「100歳記念すごいぞ！野見山暁治のいま」展開催（東京・京都）



野見山 暁治《ここに居る》2019年
 135.0×234.0cm、油彩・カンヴァス

本作はステンドグラス《みんな友だち》（東京メトロ青山一丁目駅設置）の原画準備のために制作した3点のエスキース（構図案）のうちのひとつ。最終的に別の構図が採用され、本作は絵画として仕上げられた。モチーフは草原であり、生い茂る草や樹木の葉のゆれを感じるようなダイナミックな作品。

木村 忠太 (きむら ちゅうた 1917-1987)

- 1917年 香川県香川郡栗林村（現高松市）に生まれる。
 1930年 香川県立工芸学校に入学するも後に病気のために中退。
 1937年 前年に上京するが、広東省付近に出征。翌年病気で台湾にて入院し、1939年に帰国。
 1943年 帝国美術学校（現武蔵野美術大学）に通う。
 1945年 再招集を受け、中国北方で終戦を迎える。復員して高松市に帰郷。
 1953年 援助を受けて渡仏。パリ到着直後、野見山暁治の滞在する日本人留学生会館（メゾン・デュ・ジャポン）を夫婦で訪ね、しばし滞在する。
 1970年 サロン・ドートンヌの会員となる。
 1984年 フランス政府より芸術文化勲章（シュヴァリエ）を受章。
 1987年 個展を開催したニューヨークからパリに戻り、数日間の検査入院中に急逝。



木村 忠太《丘の上の木々》1985年
 130.0×162.0cm、油彩・カンヴァス

奔放な筆さばきと美しい色が生み出す画面は一見、抽象画のようだが、じっと見ると景色が見えてくる。立体は家だろうか、緑の平面は丘の緑だろうか、青は空だろうか、赤は夕日の輝きだろうか。木村は眺める景色を、一枚の絵の中にコマ送りの画像をワンシーンずつ重ねるように描くため、画面には時間の経過や場面のゆらぎが見出される。